



笠山

阿久根市立三笠中学校
学校便り 平成30年度10月号

校訓	生活実践目標
自主	美:場を清める
協調	礼:礼を正す
持続	時:時間を守る

学校教育目標
未来を拓く、心豊かでたくましい生徒の育成

人生は「命」とやる気があれば何度でもやり直せる、挑戦できる

県内で中学生の自殺がありました。中・高校生等が若く尊い命を自ら絶つという報道に触れる度に悲しく、やり切れない思いで一杯になります。生きていく中では確かに辛いこと、苦しいこと、悲しいこと、悩むこともたくさんあるでしょう。しかしそれ以上に、楽しいこと、嬉しいこともたくさんあります。もし、失敗したり間違ってしまったら、やり直せばいいのです。人は失敗を繰り返して成長していくものです。「人間万事塞翁が馬」という故事があるように、あの失敗、あの苦労があったからこそ、今の自分がある…そういうことだってたくさんあります。大事なことは一度も失敗しないことではなく、失敗のたびにやり直し、新たに挑戦することです。場合によってはなかなか解決しにくい問題があるかもしれません。しかし、止まない雨はありません。明けない夜也没有ありません。辛さ、苦しみを時間が解決してくれることもあります。また、「過去と他人は変えられない」と言われるように、自分の力ではどうしようもないこともあります。それを冷静に受け止める強さも必要でしょう。

そんな思いで、10月9日の全校朝会では次のような話をしました。

「時間は止められない。過去には戻れない」このことは誰でもわかっていることだろう。しかし、それでもなお、「あの瞬間に戻ってやり直せたら…」と何度も思う人もいないのだろうか？

現在、アジアパラ競技大会が開催されている。出場選手の中には突然の事故で手や足を失った人も少なくない。

「ちょっと前まで何の問題もない、元気な体だったのに…」
「どうしてこんな目に遭わなきゃならないのか…」
「もし、あのときに戻れたら事故を避ける行動をとるのに…」



失った手や足をじっと見つめながら涙し、言葉に表せない絶望感を感じたり、人生に希望を失い、生きる意味が見出せず、死を考えた人もいたかもしれない。



しかし、その絶望感や辛さ、苦しみからは上がった強さ、不屈の魂に心を打たれる…。

「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に活かせ」これはパラリンピックの生みの親であるルードヴィッヒ・グットマン博士の言葉である。また、ある義足のランナーは「私は事故で右足を失った。そして左足は残っている。失った右足を後悔して生きるのか、残った左足の可能性を見て生きるのか、私は後者を希望と呼ぶ」と話している。

人生には自分の力で変えることができることと、自分の力では変えることができないことがある。大事なことは変えることのできないものを受け入れる冷静さと変えることのできるものを変える勇気を持つことだ。

失ったものが「命」でさえなければ、やり直しはいくらでもできる。人生は「命」とやる気があれば何度でも挑戦ができる。自分次第で未来は大きく変わるのだ。

思春期真っ只中の中学時代は心も大きく揺れ動く時期でもあります。そのため、様々なストレスを抱えてしまうこともあります。大事なはそのストレスを吐き出す場があることであり、その中心が家庭だとします。保護者の皆様、どうぞ彼らの言葉に耳を傾けてください。肯定も否定も要りません。彼らの思いを感じるだけでもいいのです。人は自分の思いを聞いてもらうだけでも気持ちが晴れるものです。

私は学校を学ぶ場、鍛える場、そして社会人となるべき基礎を作る場だと考えます。そして家庭は基本的生活習慣を身につけさせるとともに、癒しの場、心を元気に回復させる場だと思います。

これからも学校と家庭という両輪をしっかりとかみ合わせて子どもたちを育てていきましょう。

(校長 四元 清路)

平成 30 年度全国学力学習状況調査の結果について

4 月に行われた全国学力学習状況調査の結果が発表されました。本校の結果は下の表のとおりです。国語 B 以外は全教科 1 点ずつ県平均を下回っており、全国と比べると全教科で 2 点以上の開きがありました。

本校ではこの結果を分析し、課題点や学力向上に向けての具体策等について以下のように考えました。

<国語科>

課題：情報を収集して思考する問題を苦手としている。
場面の流れを追って理解する力が不足している。

具体策：資料やグラフを読み取ったり、活用したりして文章を書く授業を行っていく。

漢字や言葉の意味を理解させ、語彙力を養う。

<数学科>

課題：基本的な計算や語句の意味理解が定着していない。

比例・反比例の分野や図形の証明を読み取る問題が苦手。

具体策：自分たちで問題を作成するなど、思考を深めるための時間を増やす。

小テストや宅習による復習を重視していく。

<理科>

課題：生物の分野や実験結果から新たな疑問を持ち表現する問題が苦手。

具体策：生物に関する単元を復習させていく。

実験結果からさらに探求していく授業を展開させる。

	国 A	国 B	数 A	数 B	理科
本校平均	74	59	63	44	64
県平均	75	58	64	45	65
県との差	-1	+1	-1	-1	-1
国平均	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
国との差	-2.1	-2.2	-3.1	-2.9	-2.1

平成 30 年度全国学力学習状況調査結果

また、本校の特徴としてどの学年も二極化があげられます。この溝を埋められるように全教科をあげて「主体的・対話的な授業」に取り組み、本校の生徒たちの学力向上に努めてまいりたいと思います。

昨年度より記録向上！ 地区駅伝大会

県大会の予選を兼ねた出水・伊佐地区中学校駅伝大会が 10 月 3 日(水)、出水市高尾野町河川敷ジョギングロードで行われました。

今年度は男子チームだけが参加しました。地区内の中学校から全 25 チームが出走し、三笠中学校は昨年と同じ 9 位でした。しかし、昨年度よりもタイムを 58 秒短縮しました。6 人でタスキをつなぎましたので、ひとり 10 秒近くずつ速く走ったことになります。夏休みから継続してトレーニングした成果を見事発揮してくれました。

来年度は女子もチームを編成し、男女で大会に臨み、県大会を目指してほしいと思います。



新たな伝統の始まりです 地区新人戦

10 月 10 日(水)・11 日(木)、新チームになって初めて地区内の中学校が一同にそろって出水地区新人大会が各会場で行われました。

3 年生からチームを引き継ぎ、1・2 年生だけのチームで夏休みの厳しい練習を乗り越え、その成果を発揮すべく大会に挑みました。

満足できる結果を収めた部もあれば悔しい思いをした部もあったようです。しかし、これが新しい歴史を作る第一歩です。来年の夏の総体では一層の飛躍が期待できることでしょう。

<各部活動の結果>

剣道部 男子団体優勝

1 年個人優勝:山田悠翔

2 年個人 2 位:宮内大空 3 位:大野優斗

柔道部 男子団体 3 位

女子個人優勝:石原美優

男子個人準優勝:坂口海斗、濱之上典樹

野球部 3 位(決定戦:4-3 合同チーム)

女子バレー部(長島と合同) 6 位(決定戦:2-1 出水)

男子バスケットボール部 リーグ戦敗退

女子バスケットボール部 リーグ戦敗退

11 月の行事予定

地域が育む「かこしまの教育」県民週間 11 月 1 日～7 日

本校ではフリー参観、学習発表会が行われます。お気軽にお越しください

日	曜	行事等	日	曜	行事等
1	木	フリー参観(9 日まで)	16	金	家庭教育学級(寄せ植え教室 19:00～木工室)
2	金	学習発表会、3 年 P T A	20	火	期末テスト(～22 日)
5	月	いい歯にっこり三笠週間 (1 1 日まで)	21	水	学校保健委員会
7	水	家庭学習強調週間	22	木	避難訓練
9	金	テスト前部活動休止			

